



日動労千葉

国鉄千葉動力車労働組合

〒260 千葉市中央区要町2番8号(動力車会館)

電話 (鉄電) 千葉 2935・2936番
(公) 043(222)7207番

96.6.20 No. 4417

営業分科会定期委員会開催

六月一日、千葉市において、第三回営業分科会定期委員会が開催された。

定期委員会には、分科本部役員・各線区選出委員総勢一八名が参加し、営業における問題点や今後の闘いの方向性などを討議・確認した。

主催者あいさつにたった渡辺会長は、「今年一月に一身上の都合で退職した。しかし、六〇才まで動労千葉組合員として活動したい。大会等には必ず出席するので見かけたらぜひ声をかけてほしい。」①昨年は、売店廃止によって二〇名の営業分科会の組合員がたらい回しにあった。運転士に復帰を要求する組合員について、本人の希望を無視し、駅に残したり、検修職場へと再配転を強行した。断じて許せない。②JR総連が組織的な危機になっている。勝負時がきていると感じる。営業職場に配転された組合員は、動労千葉の闘いを体言したからこそ強制配転となっている部隊である。ここ一二年が勝負である。みなさんにさらなる団結を固めてもらいたい。」と激励のあいさつが行われた。

来賓のあいさつとして、本部・田中書記長があいさつし、国鉄をめぐる決戦情勢を明らかに。「この間の流れは、国労を取り込み、JR総連を切るという方向だったが、国労・動労千葉破壊に大きく舵が切られたと見なければならぬ。当局-JR総連一体の組織破壊攻撃にいついかなる時もストに入る体制を構築した。当面の焦点は、木更津

支区における脱退強要・幕張電区区の有機溶剤使用業務であるが、営業職場も無関係ではない。いつでもストに入れる体制を築いて欲しい。」と本部の考えを提起した。

続いて外山委員が経過報告、佐藤委員が情勢・方針、浜野事務局長が決算・予算について提起し、質疑応答に入っていた。各委員から、

①ここ五年で組合員が出向・退職年令を迎える。五〇代になると当局が陰に陽に圧力をかけ、退職に追い込まれたというケースも増えてくるのではないかと。本部としては五五才・五七才出向問題について、今後どのような考えでいるのか。

②うちの組合員が配置されている直営店舗について、一二月にまたも閉店となるウワサが出ている。

③千葉駅で「JC店」を開店するという話が出ているが、本当か？

④六月より各駅でサービスマニ研修が行われようとしている。どのような体制で行われ、要員の的な問題はきちつとしているのか。などの意見が出された。

最後に退任された渡辺分科会長に変わって、佐藤新会長をはじめとする新役員体制を選出し、出席者全員が強制配転された時の怒りを忘れることなく、営業職場の労働条件改善・営業合理化阻止、反合・運転保安確立の先頭に立つことを確認し、営業分科会定期委員会は終了した。

新役員体制

役職	氏名	支部
会長	佐藤博	総武
副会長	永井一代	銚子
事務局長	浜野善弘	津田沼
常任委員	岡安正人	総武
同	吉野六郎	鴨川
同	鈴木敏夫	木更津
同	外山義章	京葉
会計監査	吉野幸成	総武

佐藤会長あいさつ

渡辺前会長が退職され、会長が回ってきた。顧みれば、分科会の前身として営業協議会が発足した時点で会長となったが、焦点となった組織攻防戦の責任を取っていく立場で再度先頭で闘いたい。JR当局-JR総連一体となった不当な攻撃が激化するなかで、強制配転された怒りを忘れることなく、営業分科会の発展を勝ちとりたいと思う。全分科会員の奮闘をお願いしたい。

第3回営業分科会定期委員会



第九回サークル協団結地引き綱大会

日時 七月二一日(日) 九〜一五時
場所 九十九里・一松海 海の家「あいの」
直接、現地九時集合
交通 外房線茂原駅より「白子車庫」行きバスに
乗車 約一五分「一松海岸」下車すぐ。